



2022年5月16日

各位

会社名 株式会社エスユーエス
代表者名 代表取締役社長 齋藤 公男
(コード番号：6554 東証グロース)
問合せ先 取締役兼最高財務責任者 浅田 剛史
(TEL. 075-229-7400)

**減損損失（連結）及び関係会社株式評価損（個別）の計上
並びに2022年9月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値の差異に関するお知らせ**

当社は、2022年9月期第2四半期会計期間において、下記のとおり減損損失（連結）及び関係会社株式評価損（個別）を特別損失として計上いたしましたのでお知らせいたします。また、2021年11月12日に公表しました2022年9月期第2四半期累計期間の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 減損損失（連結）の計上について

当社の連結子会社である株式会社クロスリアリティ（以下「当該子会社」といいます。）は、VR及びARに関する産業及び教育における世界的リーダー企業である米国 EON Reality 社（以下「EON社」といいます。）と業務提携契約を締結し、VR及びARに関するエンジニア育成と商品の販売・開発を目的として、2019年4月に設立いたしました。しかし、AR/VRアカデミー事業において、新型コロナウイルス感染症の影響により開校及び外部受講者の獲得が遅延しました。また、AR/VRソリューション事業において、当初EON社のEONプラットフォーム、その他ハードウェアを含む商材全般の販売を計画しておりましたが、EON社がビジネスモデルの変更によりハードウェア販売から撤退したこと、及びEON社のプラットフォームや商材の日本に合わせたローカライズ化（日本語への対応、ユーザビリティを踏まえた改修、仕様の変更等）の対応が遅れたこと等により、現在当該子会社を含むAR/VR事業全体の事業計画の見直しを進めております。

以上より、2022年9月期第2四半期連結会計期間において、当該子会社が保有する固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失203百万円を特別損失として計上いたしました。

今後の方針といたしましては、当該子会社においては、AR/VRエンジニアの育成を行うVRIA 京都（VRイノベーションアカデミー京都）での当社技術社員の教育を優先し、VRエンジニアの早期育成による差別化を推進してまいります。引き続きEON社と連携を取りながら、EON社の最先端の教育、実践プログラムの活用に加えて、これまでのAR/VR研修や商品開発によって積み上げてきた技術及び知見を踏まえ、VRエンジニア育成及び人財確保によるソリューション事業（VRエンジニア派遣等）の拡大へ貢献すべく連携してまいります。さらに、AR/VR事業においては、VRエンジニアの教育、確保により自社商品開発及び受託開発による収益拡大に努めてまいります。

2. 関係会社株式評価損（個別）の計上について

減損損失（連結）の計上に伴い、2022年9月期第2四半期会計期間の個別決算において、当社が保有する株式会社クロスリアリティ（連結子会社）の株式の実質価額が著しく低下したため、「金融商品に関する会計基準」に基づき、関係会社株式評価損 209 百万円を特別損失として計上いたしました。

なお、当該関係会社株式評価損は個別財務諸表にのみ計上されるものであり、連結決算においては消去されるため、連結業績への影響はございません。

3. 業績予想と実績値の差異について

(1)2022年9月期第2四半期累計期間の連結業績予想数値と実績値の差異

(2021年10月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,042	208	267	165	18.81
実績 (B)	5,121	396	435	104	11.78
増減額 (B - A)	79	188	168	△61	—
増減率 (%)	1.6	90.7	63.0	△37.3	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2021年9月期第2四半期)	4,658	98	379	254	28.90

(2)業績予想数値と実績値の差異の理由

売上高につきましては、ソリューション事業及びコンサルティング事業が好調に推移したことから前回発表予想を上回りました。

利益面につきましては、売上高の増加及び稼働率の上昇等による利益率の改善に加え、費用の抑制及び期ズレ等による販売費及び一般管理費の減少等により、営業利益、経常利益は前回発表予想を上回りました。一方、親会社株主に帰属する四半期純利益は、上記「1. 減損損失（連結）の計上について」に記載のとおり、減損損失を計上したため前回発表予想を下回りました。

なお、2022年9月期の連結業績予想につきましては、2021年11月12日に公表いたしました予想値から変更はありません。上記「1. 減損損失（連結）の計上について」に記載のとおり、株式会社クロスリアリティ（連結子会社）を含むAR/VR事業全体の事業計画の見直しを進めている一方、ソリューション事業が好調に推移していること等により、現時点で通期の連結業績予想を据え置いております。

今後も経営環境及び受注状況等を注視し、業績予想の修正が必要となった場合は、速やかに公表いたします。

以 上